

慶應義塾大学大学院 文学研究科 後期博士課程

史学専攻 日本史学分野

3つのポリシー

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

教育目標

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、学則に従って修了要件を満たし、定められた手続きに則った博士論文審査に合格することを目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、博士（史学）の学位を授与する。

資質・能力目標

- （１）研究対象とする分野について、最新の研究動向や研究課題に精通し、包括的で極めて高度な専門知識を有し、日本語や外国語で国内外に成果を発信してその分野の研究に独自の貢献ができる。
- （２）史学専攻日本史学分野において定められた博士論文執筆資格審査に合格した上で、日本史学もしくはその関連分野の研究を内容とする博士論文を執筆し、その論文を通じて、当該領域の研究に独創的な寄与を成し、その分野の研究の発展に大きく貢献できる。
- （３）生のデータの信頼性を確認した上で、それらを分析して論理的妥当性が認められる推論を導き出し、万人の納得を得られるような形でまとめて発表する卓越した能力を身につけるとともに、日本の歴史に対する深い理解を通じて養った、人間の営みと社会の動きに対する幅広い視野と深い洞察力をあわせもつことで、極めて高度なリテラシーを具えた社会人、研究者、教育者として、社会に対する独自の貢献ができる。

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

教育課程の編成

文学研究科史学専攻日本史学分野（博士）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、「日本史特殊研究」、「日本史特殊研究演習」から構成される教育課程を体系的に編成する。

教育課程の実施

この教育課程の編成のもと、史料読解、史料調査方法などの教育法を組み合わせる教育を実施する。

博士論文執筆のために、三田史学会日本史部会における報告を推奨し、専攻に所属する教員を含む日本史学の研究者たちからの意見を研究に取り入れることを可能にする。

学修成果の評価方法

本史学専攻日本史学分野の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学習成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われるほか、各種アンケートや調査等を含めた定量的・定性的、直接的・間接的な指標を用いて評価される。

博士論文審査は、論文提出希望者の論文に専攻に所属する全教員が目を通して当該論文が審査するに相応しいか否かを判断する。これにより、審査するに相応しいと判断されたならば博士学位請求論文として提出することを許可する。

資質・能力目標と教育内容との関係

- (1) 研究対象とする分野について、最新の研究動向や研究課題に精通し、包括的で極めて高度な専門知識を有し、日本語や外国語で国内外に成果を発信してその分野の研究に独自の貢献ができる。

→日本語による特殊研究科目を設置し、指導教員が担当する同科目を中心に履修させる。また、同科目において、専門分野等の必要に応じて外国語のテキストの講読および研究報告等を行う。

- (2) 史学専攻日本史学分野において定められた博士論文執筆資格審査に合格した上で、日本史学もしくはその関連分野の研究を内容とする博士論文を執筆し、その論文を通じて、当該領域の研究に独創的な寄与を成し、その分野の研究の発展に大きく貢献できる。

→指導教員が中心となって個別論文指導を行い、極めて高度な研究能力と論述力を養う。史学専攻日本史学分野においては、分野が定める「博士論文執筆資格審査に関する内規」に則って博士論文執筆資格審査に合格し、また論文提出までに同「内規」に定められた論文公刊や学会発表の条件を満たしている必要がある。

- (3) 生のデータの信頼性を確認した上で、それらを分析して論理的妥当性が認められる推論を導き出し、万人の納得を得られるような形でまとめて発表する卓越した能力を身につけるとともに、日本の歴史に対する深い理解を通じて養った、人間の営みと社会の動きに対する幅広い視野と深い洞察力をあわせもつことで、極めて高度なリテラシーを具えた社会人、研究者、教育者として、社会に対する独自の貢献ができる。

→特殊研究科目における専門分野の研究を通じて、学会への独自の貢献をするために必要な、史料批判と史料読解・分析の能力、課題発見能力、議論構成力を養成するために、データの質の吟味、実証的な分析・推論、成果のプレゼンテーション等の卓越した技能の修得を促す。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

求める学生像

- （１）自分の研究領域および関連分野について、高度な専門的知識を持っている。
- （２）修士課程における専門的研究をふまえて、博士論文につながる独創性のある具体的な研究計画を自ら考え、日本語でまとめることができる。
- （３）日本史の史料を正確に読むことができる分析的な読解力、独創的な学術的論考を緻密に展開できるアカデミック・ライティングの能力を身につけている。
- （４）研究成果を発表するための十分な外国語の能力を有している。
- （５）博士課程修了後の社会人、研究者、教育者としてのキャリアについて、積極的かつ具体的に考えている。

選抜の基本方針

このような入学者を幅広く受け入れるため、一般入試により選抜を実施する。

（１）一般入試

第１次試験の入試科目は専門科目および選択外国語の２科目とし、第２次試験は面接のみとする。

修士課程における専門的研究の成果としての修士論文の完成度を問い、研究者として有しているべき日本史の専門分野における知識を修得しているか否か、および研究成果を発表するための十分な外国語の能力を有しているか否かを試すものとする。